

第78回ボランティア広場
「プレゼンテーション講座」

1. 日 時：令和6年1月13日（土）14時～16時
2. 場 所：かわぐち市民パートナーズステーション 会議室1～3
3. 講 師：一般社団法人 大人の小学校 山城 純子氏
4. 参加者数：17名（団体所属 10名、一般市民 7名）

5. 要 旨

まずは、うまく話すための準備としてプレゼンテーションの流れを説明する。その後、グループワークを行いながら効果的なプレゼン方法を学ぶ体験してもらう。最後に、おすすめの本を紹介する。

事前準備としてまずは、プレゼンテーションの必要性を理解することが必要である。目的を明確にしたうえで、聞き手の分析をする。そして、何を伝えたいのか、主張を明確化にし、話の構成を考える。その後に資料の作成及び発表内容の検討が必要になってくる。そして、最後にリハーサルやスピーチを行うが、立ち振る舞いや話し方、時間配分を重点的に練習してほしい。今回は、スピーチについてグループワークを用いながら行う。周りを巻き込むような話し方や自分の体験をもとに話すこと、知識を織り込むことで、聞き手に興味を持ってもらえるようなプレゼンテーションを行うことができる。最後に、最終確認をする。会場や使用する備品等をイメージすることは、これまでの過程の中で最も重要な部分である。プレゼンテーションの実施については、後ほど詳細を話す。断定的に話した方が、信頼をもてる話し方になる。そして、質疑応答、制限時間の厳守、声量などに気をつける。

早速、実践にうつる。代表1名に自己紹介をしてもらう。

（自己紹介）

自己紹介をパターンとして用意しておくといよい。人生の肩書や出身地、あまり知られていないギャップなどを話すと、名前とともに覚えてもらえる。

次に、効果的なプレゼンの特徴、構造や組み立てについて、今回は3つのポジションを紹介する。1つ目は、講義をする人という意味の「レクチャー」、2つ目は、司会進行役の「ファシリテーター」、3つ目は、自己の体験談や事例を話す人という意味の「ストーリー・テラー」である。この3つをプレゼンの中に組み入れることで、聞き手に興味を持ってもらえると考えられる。3つのポジションを移動しながら、また、聞き手に語りかけるように話すと良い。これから、1人5分ずつ自己紹介をしながら、グループワークをする。その際には、フィードバックを行う。聞き手側からアドバイスをもらうことで、自分がどのように見

えていたのか、相手目線の気持ちを理解することができ、プレゼンがより良くなる。

(グループワーク)

グループワークを通して、話のキャッチボールが大切であることを学んでほしい。

次に、プレゼンテーション中の話し方のコツを7つ紹介する。まず、姿勢・アイコンタクト・ポジション取りである。聞き手とは、敢えて視線を合わせ、何を伝えたいかを意識し五感を使って話す。そして、一番伝えたい部分は強調することを意識する。例えば、「今日伝えたいことは、〇つあります」のように、数字を言ってから話すと納得感がある。また、敢えて間を取ることも大切である。例えば、聞き手に何か質問をした際に、回答までの時間を少し設けるということ。

最後に、これまでの講義を活かし、簡単にプレゼンテーションをしてもらう。

(プレゼンテーション)

プレゼンテーションをしながら、頷いてくれる人を探し、その人に向けて話すと気持ちが安心し、話しやすくなる。

今回の講義を通して、聞き手との信頼関係を築き、五感を使って感情が揺さぶられるような話し方ができると印象に残り、「また話が聞きたい!」と思ってもらえるようになると思います、今回の講義を終了とする。

第78回ボランティア広場の様子



